転用申請農地の位置を航空写真等で瞬時に確認

長野県
岡谷市農業委員会

農業概要

農業地域類型／都市的地域
総農家戸数／673 戸（平成 12 年農林業センサス）
耕地面積／298ha（平成 12 年農林業センサス）
農作物ベスト 3
（金額ベース、平成 12 年農林業センサス）
① 花き（2 億 1,000 万円）
② 野菜（1 億 4,000 万円）
③ 米（1 億 2,000 万円）

〒394-8510
長野県岡谷市幸町 8-1
TEL0266-23-4811　FAX0266-23-6448

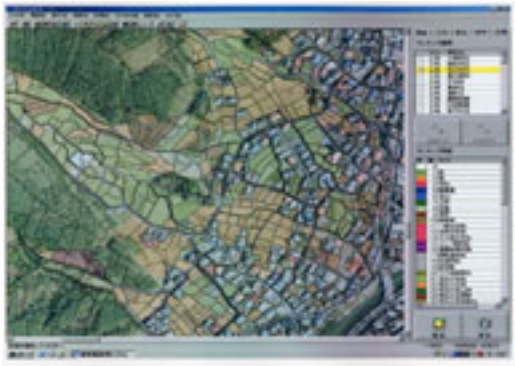
電子化の取り組み

■ 経　過

農地利用の相談に対応するため、
平成 14 年にシステムを導入

都市化が進展する岡谷市では、担い手の不足や高齢化により農地の宅地化や遊休化が進んでいる。このため、「市民農園」や「体験農業」などの取り組みを行うことで農地の遊休化を抑制している。近年は、定年退職者から農地利用の相談が多く、同市ではこうした要望を遊休農地の解消や農地利用集積につなげ、その情報を効率的に管理するため、平成 14 年に農地情報管理システムを導入した。

本システムの導入により、農地の履歴や現況が即座に確認できるようになったため、農地転用等の届け出等にも瞬時に対応することができるようになり、窓口業務の迅速化が図られている。



▲土地現況地目を表示する画面

■ 電子化の内容

管理方法――農業委員会独自のパソコン

地理情報――地番図、航空写真

属性情報――農地基本台帳
農地転用申請履歴情報
農業振興地域情報
住民基本台帳

■ 管理データ　（平成 14 年度現在）

土地筆数	農地筆数	土地面積	農地面積	農家世帯数
24,224 筆	11,600 筆	667ha	415ha	742 戸

システム導入・維持

A. 導入時

導入費用は市町村独自の予算を組むとともに農地情報管理システム整備事業費を活用した。データ入力等の作業はシステム会社に全面的に委託した。

B. 維持管理

岡谷市農業委員会とシステム会社との保守契約により、年間 2 回、システムの補正、パソコンの点検を実施している。また、急を要するデータの修正業務等にはパスコが随時、対応する体制をとっている。

■　使用ソフト

・パスカル農地情報システム（㈱パスコ）

■　ハード

・TWCTOP（エプソン）

周辺機器

・オフィリオ LP9500CZ（エプソン）

■導入費および維持管理費の内訳　（※農地情報地図システムのみ）

（単位：万円）

区　分		市町村独自予算	農地情報管理システム整備事業費	農業委員会交付金事業	長野県単独事業費	計
導入費	入力		426			426
	ソフト		110			110
	ハード	83				83
	その他					
	計	83	536			619

区　分			市町村独自予算	農地情報管理システム整備事業費	農業委員会交付金事業	長野県単独事業費	計
維持・管理費	システム	保守	50				50
		地図情報変更					
		属性情報変更					
	ハード	保守					
		リース					
	その他						
	計		50				50

マッピングシステム（地図情報システム）の活用事例

■農地流動化業務に活用

課題

転用申請は年間 100 件。作業の簡便化が課題だった。

（～平成１３年）

岡谷市では農地転用の申請があった際、農地基本台帳と地図を照らし合わせながら位置を確認し、現地確認をしていたが、作業はまず膨大な書類の中から関係資料を探し出すことから始めなければならず、その作業には時間と労力がかかっていた。このため、作業の簡便化が急務の課題だった。

▲紙で管理されていた農地基本台帳と地図

活用

航空写真を使って、瞬時に申請農地の位置を確認。

（平成１４年）

農地情報システムの導入後は、航空写真等により転用申請農地の位置確認を行っている。周囲の土地状況の把握や現況確認など、１件の申請につき最低２回以上は同システムを使用しており、作業の大幅軽減が図られた。また、転用履歴も項目別に保存することが可能となっている。

結果

住民サービスが向上。将来は農地利用集積の支援ツールとしても活用。

（平成１５年～）

農地転用の位置確認等が航空写真を使って容易にできるようになったため、窓口での住民の問い合わせにスムーズに対応できるようになり、住民サービスが向上している。

岡谷市では、農家でない住民にも農業に参加できる「体験農業」を実施しているが、将来的には農地の利用集積にもつなげる方針だ。

▲土地の現況把握に便利な航空写真

ココでも活用！

■ 地番ごとの色分けをすることで､米の生産調整に関する農地の位置確認を行っている。

■ 農振除外区域を色分け表示して、わかりやく管理している。

利用者の声

岡谷市農業委員会　主幹
田中　哲夫さん

農地確認の問い合わせに瞬時に対応できるようになりました。

最近、農家は世代交代の時期に入っている。しかし､「相続したが、どこが自分の農地か分からない」という問い合わせが多く、今まではそれに答えることができなかった。農地情報システムを導入したことで、その確認作業が簡単になり、農家の方も気軽に問い合わせをしてくるようになりました。

課題と展望

■　課　題

・　市民のプライベート情報を多く扱うため、情報の流出や守秘義務を徹底する必要がある。

・　現在、共済台帳は別ソフトで管理しており、データが二重入力され、効率的でないため、共済台帳との一本化が必要になっている。

■　展　望

・　意向調査に取り組み、この調査結果を反映した農地地図を使って認定農業者や担い手への農地流動化等を進めていきたい。